

特別講演 1

「耳鼻咽喉科疾患と“One airway, one disease”の病態と治療」

福井大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師

山田 武千代 先生

アレルギー性鼻炎は鼻粘膜層への抗原暴露後に生じる IgE 依存性の炎症によって誘発される症候性疾患で、世界でその患者数は 6 億人を超え、420 万人が毎年新たに発症し、重篤な健康問題や障害を引き起こしている。アレルギー性鼻炎全体の有病率はここ 10 年で、29.8%(1998 年)から 39.4%(2008 年)と変化、特にスギ花粉症は 16.2 %(1998 年)から 26.5%(2008 年)と増加し国民病とまでいわれている。アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、小児喘息、蕁麻疹、通年性アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、成人型喘息へと移行するアレルギーマーチでも、通年性アレルギー性鼻炎と花粉症が下気道に及ぼす影響は大きい。気管支喘息の患者さんがアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎を合併する頻度は非常に高く、上気道の治療が重要となる。スギ花粉症に対する舌下免疫療法が近い将来、保険適応となる予定であり、今回は、アレルギー性鼻炎を中心に“One airway, one disease”気道アレルギーの病態と治療についてお話ししたい。